

第5章 授業実践

第6節 成果と今後の課題

今回の授業では情報モラルの中の個人情報について扱った。情報モラルもとても広い範囲があり、その中のピンスポットのなものになる。この個人情報については、今回の授業実践を通して、子どもたちに同種の経験が降り注いできたとき、また遭遇した時に解決する力はついたことは成果であろう。また一方で、この情報モラルについては、まだまだ学校で指導していかなければならない内容が豊富にあり、もっと他の角度から情報モラルを指導していくということは大きな課題になろう。そのようなマクロなとらえをした上で、成果と今後の課題について触れていく。

5.6.1 成果と思われるもの

冒頭述べたように、今回の授業実践においては、個人情報の保護の大切さを指導した。その結果、子どもたちには次のような力がついたことが成果としてあげられる。

- ・電話や訪問などで知らない人から、友だちの住所や電話番号を聞かれても、簡単に答えてはいけないこと。
- ・相手方が誰なのかははっきりしない場合は、親に代わる、親のいる時にしてもらう、電話だとかけ直して確かめるなど、対処の仕方があること。
- ・緊急の場合で、相手に自分のことを話さなければならないと感じた時は、自分の経験で、考えて判断すること。結果的にその判断が間違っていたとしても、それは責められるべきものではないこと。
- ・インターネット上での個人情報の入力については、とても便利であるが、その一方、デジタルになったデータは非常に扱いやすく、また第三者に流される可能性もあり、相手か信用できるかどうか、よく考えてから情報を入力すること。
- ・ネット上の金銭トラブルなどが多数報告されていることから、子どもがクレジットカード番号や銀行口座の番号などをネット上に書くことは絶対にしてはいけないこと。

子どもたちは、不審電話については経験や間接経験を通し身近なものとしてとらえることができ、今後の生活に活かすことができるだろうと考えられる。またインターネットでの書きこみについては、経験している子どもが少ないことから、ドキドキしながら、「送信ボタン」を押していた。授業の反省のところでもふれたが、「ちょっとこわかった」という子どもたちの言葉が聞かれた。このことは、今後子どもたちが大きくなって、益々インターネットが身近となった時に、送信ボタンの上にマウスが来た時、「ちょっと待てよ。」と自分自身に確認の気持ちを持たせ、規約をもう一度見るとか、信頼してよいサイトかを再考する時間が一瞬でも作ることができることにつながっていくであろうと考える。

5.6.2 課題と考えられるもの

5.6.2.1. 授業を通して

今回の授業では、教材作りにとっても時間がかかった。音声スキットでは、教育大学の学生さんに、協力していただいた。また、ニセのホームページ作りについても、それなりの時間をかけて作った。また、悪徳業者がデータを処理する場面では、コンピュータ操作に関して、一定レベルの精通した能力が必要となる。そう考えると、同じ授業を誰でもが追試することができるかということそれは難しいと言わざるを得ない。教師は情報教育を児童にしていくことは求められるが、パソコンのエキスパートである必要はない。

今回の授業だけについて言えば、自分だから、思った通り、好きなように授業をくめたかなあと思う。課題としては、今回のような授業を誰でもが実施できるよう、教材の扱いをできるだけ容易にしていくことが求められるであろう。

次に怪しい電話に対する対応である。授業では、怪しいニセ電話、そして怪しいかそうでないかわからない電話を扱った。子どもたちの多くは、いずれに対しても、ほとんどの子どもが「個人情報教えない」と語った。授業では、情報を教えない場合もあるということは子どもたちにはっきりと伝えた。本物かニセか子どもたちが悩まなければならない時代が何とも悩ましいが、その場、その場に合った判断が本当のこの授業で身についたのか、また、どのようにすることが、警戒心を持ちつつも人間同士お互い信頼していくものと子どもたちの心に落ち着くか考えることも課題だと感じた。

ホームページでのキーワードは「こわい」であった。授業の話し合いの中でも、このこわさの「さじ加減」が適切であったかが問われた。子どもたちの感想の中には、「こわかったけど、勉強になった。」というものが多かった。子どもたちに、「インターネットでの個人情報入力には慎重に」ということを訴えていった。子どもたちにとって、それが、インターネットから情報を送るのはこわいこと、悪いことと思ってしまうのは授業が失敗になる。逆に、「楽しかった。おもしろかった。」でも困るのである。自分なりに子どもたちに適切であると思うさじ加減と考えたが、効きすぎ、効果薄などあるかもしれない。小学校5年生という段階に今回のニセホームページからの情報発信は、適切だったのかどうか、また、それを同検証していくのが今後の課題であろう。

5.6.2.2 情報教育全体を通して

授業は、情報活用能力の3つの目標のうち「情報社会に参画する態度」にかかわる情報モラル、しかも個人情報の保護という全体から見るととても小さい領域について指導した。もっとも、今回の授業は、ホームページから情報を発信するという、「情報活用の実践力の育成」、筆者の操作を見るだけではあったが、データ処理の仕方を学ぶ「情報の科学的な理解」を含むものであったが。

子どもたちに小学校段階でつけさせておくべき情報モラルについては、今回の個人情報以外にも、数多くある。それを教育課程にどう位置づけ、どのように指導計画を立て、実践していくか、非常に大きな課題ではあるが、考えていかなければならないことである。

子どもたちにとっては、教師の話だけでは、なかなか心には染みていかない。何かしら教材を作り、子どもたちに体験を通して指導していくことが大切であると考え。そのため
の教材やワークシートなどの情報の共有化をどのように進めていくかということも課題であ
らう。